

2014年12月21日 クリスマス礼拝

説教「ほんとうの王」

マタイの福音書2章1-12節

【大きな喜びを、ひどく喜んだ】

マタイ2章の中ほどには、ベツレヘムで起こった悲劇が記されていて、暗い影を落としています。けれどもその中で、光り輝いているのが「その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ」(10節)。ここは「彼らは大きな喜びを、ひどく喜んだ」と訳すことができます。博士たちは、主イエスのお生まれになったところに着いたとき、ああ、いよいよ、ほんとうの王に会えるとひどく喜んだのでした。

【東方の博士たち】

東方とは、バビロンのことだといわれます。かつてイスラエルを捕囚にしたバビロン。イスラエルの敵であり、神を知らない人々の国です。さらに博士たちとありますが、これは「星占い」の方が実際に近い表現です。ユダヤ人からすれば、とても問題のある職業なのです。

だから主イエスは、最も遠い人々のところに現れてくださったのです。一見、博士たちが主イエスを探したように見えるのですが、彼らを導いたのは星です。神さまが彼らを導かれたのです。もっとも遠い人に届く神さま。もっとも遠い人を、いのちへと導く神さまです。ある人は、クリスマスを「神のむき出しの壮絶な愛」が現れた日

と呼びました。小さな傷つきやすい赤ん坊となって、この危険な世界に来てくださった神さまのむき出しの愛。そして十字架にかかってくくださった神さまの壮絶な愛。その愛はすべての人のためです。東方の博士たちは、この愛を知って、大きな喜びをひどく喜んだのでした。

【ほんとうの王】

ここに二人の王がいます。ほんとうの王イエスとヘロデ王。二人の王はまったく正反対です。ヘロデは、自分の王座を守ろうとして、王の位をおびやかす者には容赦をしません。けれども、私たちの中にもヘロデがいます。もちろん私たちは、できるだけ正しく考え、正しく行動しようとしています。しかし、私たちの正しさは、簡単に、かたくなになってしまう正しさです。自分の正しさが脅かされるのを恐れるヘロデがいるのです。

ところが主イエスはまったくちがう王です。「わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出る」(6)とあります。「治める」というのは、愛をもってケアするということです。ご自分を脅かす者も、かえりみて、ケアしてくださるお方。ご自分のいのちを狙うヘロデをも愛して、救おうとするお方。すべての人をご自分の愛の支配で覆ってくださるお方。自分の正しさにしがみつくと

すべての人を解き放つほんとうの王なのです。

だから、主イエスに解放された者は、恐れる必要がありません。自分を守るよろいを再び身にまとう必要がないのです。よろいの中でかじかみ、縮こまっていた手足を思う存分伸ばすことができ、成長を損ねられていた手足を思う存分成長させることができるのです。

そしてまた、主イエスは私たちを死の恐れからも解き放つことができになります。主イエスは死をも支配する王。十字架にかかって死んでくださったけれども、死からよみがえり、死を従えてくださったお方。このお方は私たちをもよみがえらせることができるのです。もはや私たちは死について心配する必要がありません。ただほんとうの王を喜び、この王に従うだけでよいのです。

【洗礼と聖餐】

洗礼式が行われる礼拝では聖餐が行われるのが通常です。なぜなら、キリストとつながることは、仲間とつながること。そして、聖餐は仲間といっしょに主の食卓で与る食事だからです。私たちはひとりではありません。ともに生きて行く仲間がいるのです。この仲間といっしょにほんとうの王に仕えていくのです。